

相馬市

初
三
日

天下三祭の随一

野馬追祭

中村城跡

相馬中村神社

相馬神社

縣立公園

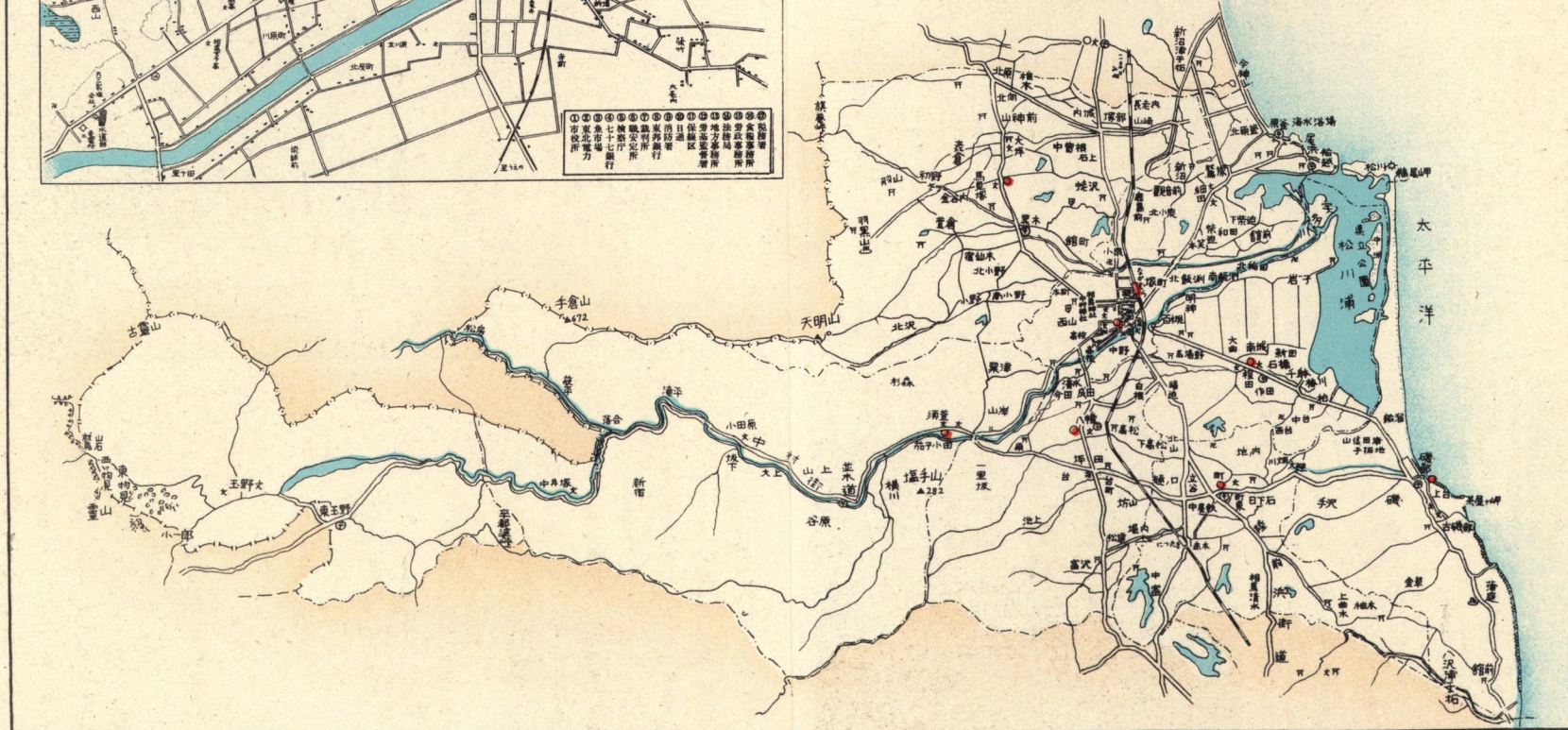
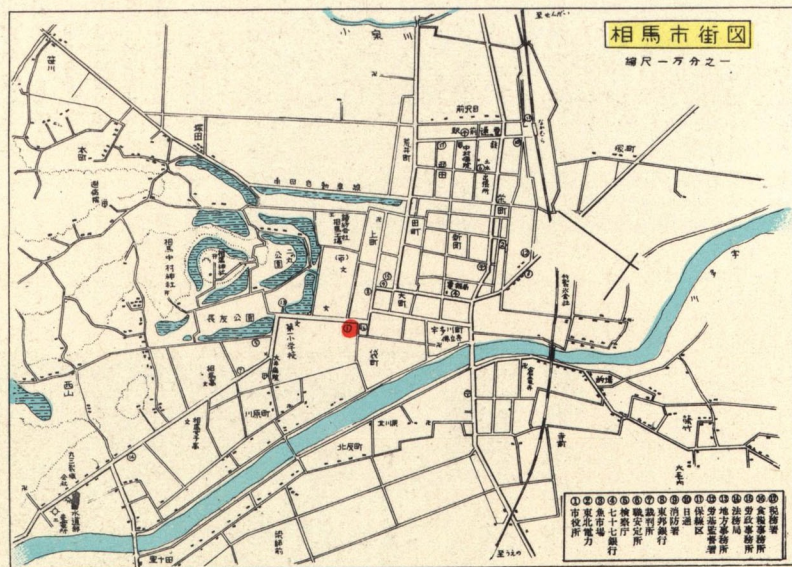
松川浦

100923168



福島県立図書館
0145053328

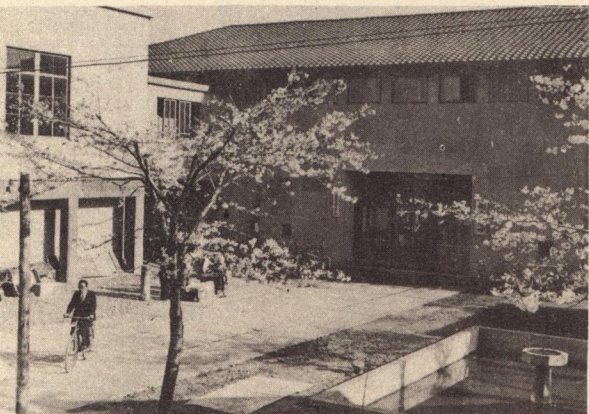
福岡県 (Fukuoka Prefecture) map showing major cities, roads, and geographical features. The map includes labels for neighboring prefectures (山口県, 佐賀県, 熊本県, 大分県, 鹿児島県, 宮崎県) and the surrounding sea (太平洋). A legend at the bottom left explains symbols for cities, rivers, and other features.



絵に添へて ひとふて

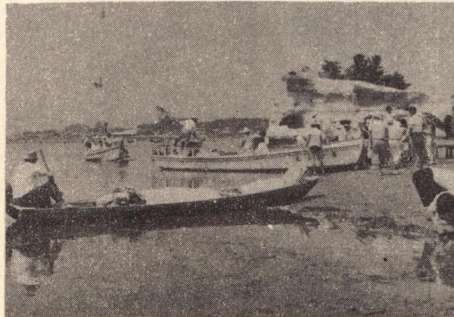
郷土美を、画にして見せる初三郎
私がこの、鳥瞰画法創始以来、早や
もう、四十五年になる。かねて世界の
学聖、徳富蘇峰先生より、初三郎へ賜
はりし、御高信中にも。
「世態百態、山容水色、八景古依然、
コレ後世に画き残さず得ば、国家ノ
前途ニ貢賦スル之ニ尙サルトコロ無カ
ルベク」の一節これあり。今回ゆく
りなくも。
相馬市々長、横山宗延氏の高鳴を拝
し、その善政下に躍進文化の、全都市
美大観を確立すること、まことに欣喜禁
じがたきものあり。
さらにその風光と共に、天下三祭の
随一、相馬野馬追祭を表紙に画き得た
ること、またひとしをの感銘である。
本國幸ひに、諸氏が現下の相馬市探
勝の一知ると同時に、後世への記録
画として、人文史上に寸献の事となら
ば、筆者無上の光榮である。
昭和三十年
吉田 初三郎

相馬市庁舎

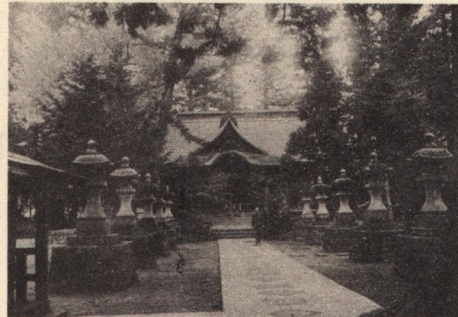


相馬市沿革
相馬市は福島県浜通りの北寄りに位
置し、昭和二十九年三月、相馬市六
石の旧城下町中村を中核とし、四周の
旧宇多郷一、大野、飯豊、磯部、日立
木、八幡、山上、玉野等の農山漁村を
併せて発足した新市である。面積一九
七平方町、世帯七五〇〇戸、人口四万
四千。東に太平洋を控え、長汀曲浦四
季とりどりの趣のある松川浦原釜一帯
の形勝地があり、西に阿武隈山脈が連
互し、風景と史蹟とを兼ねた名山、霊
山（りょうぜん）がある。

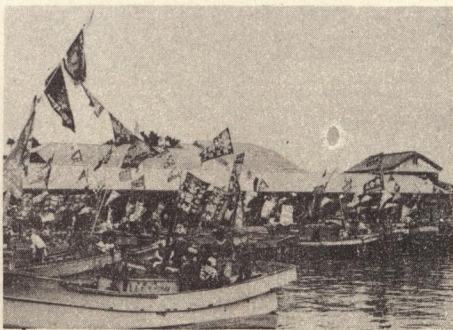
市内には由緒ある社寺が多く、各種
の官公署学校が設置せられ、附近一帯
に名所旧蹟が多く、常磐沿線屈指の観光
地である。
商店街としては田町・大町、続いて宇
多川町・栄町・荒井町があげられる。
道路の舗装も成り、電飾も行き渡り、
いつも賑わっている。
自動車路は中村を起点として放射状
に発達し特に仙台・福島・原町・白石
の各市に直通して至極便利である。



（原釜海水浴場）原釜の市街地南端の丘陵が
海中に突出した笠岩（西行法師が絶景にみとれ
て笠を置き忘れた所という）を中心に両側（原
釜と尾浜）の海岸が数百年前より、遠浅となり
波静かに砂浜、かつ設備も整い、今や絶好の
海水浴場となつてゐる。太平洋の彼方、水天
驚たる所、金華山が見える。民謡「おれと行
かねえか相馬の浜へ」さかなせ、だいて寝る
の相馬の浜はここである。
さすが旧藩時代以来の漁港だけに、鮮魚も亦豊
富である。中村駅東方五軒強・国鉄バス二十
四。（松川浦）松川浦は周囲十数軒の入江である。
水静かにして鏡の如く、奇巖浦中に点在し、古
松岩頭にせぐまき、所々に網代小屋を配し、
画趣、誠に胸すべきものがある。古来松島に次
ぐ東奥の奇勝として名高く、元禄年間から伝
つての延臣の松川十二景の歌は有名である。大
町桂月は一屏風の如き山々と長汀曲浦の瀬と
松島に勝るとも劣らざるを賞ゆ」と推称して
いる。さきに日本風景の一に入り、今、県立公
園となつてゐる。夏には風光と涼を求めて観光
客が雲集する。
大鍋や松にかけたるあさり汁
網代小屋の数や遠きは照りかすむ 羽格桐
女房を呼んで福寿しにけり 乙字
相馬の文学は、松川浦によつて育まれたとい
つても過言ではない。
一日の清遊をほし、いまにしようと思えば、
遊覧船に乗るのもよいが、小舟を雇つて中川に
遊び、途々網・蛤等をあさり、釣魚を採り、
水基山に登つて全景を俯瞰するのがよい。夏の
保養地として又キャンプ地としては、浦原から
原釜釣師海水浴場（新地村）へかけて選べばよ
い。中村駅東方五軒強、国鉄バス二十五。（松川港）松川浦口にある。昭和六年以来巨
費を投じて設備され、五十噸級の漁船なら数十
隻は優に碇泊でき、小名浜塩釜間唯一の良港で
ある。つて水揚げ漁獲高も相当なものである。



（八幡神社）霊山の北畠頭家の将白川入道忠が熊
野堂に抱つた時、武運の長久を祈らんと地を涼ヶ岡
に選んでこの社を建てた。社殿宏壮・境内幽邃、近郷
にその比を見ない。
仲秋名月の日が祭日で、前夜祭の名物「芋湯揚」は古
来独得の風味を以て賞せられる。桜の名所でもある。
中村駅西南三軒、バス二十四。
（熊野堂城址）吉野朝の御代、北畠頭家が霊山に立
籠つた時、その身白河城主結城宗広は一族中村六郎
広重をして霊山搦手の堅勢熊野堂城に抱り、海道一円
の要害守備に当らせた。相馬氏は当時小高に居城して
いたが、之を襲つて滅してしまつた。地名の中村はこ
の時に発する。今、熊野堂と称する小高い丘がその城
址である。
城址の南麓にある熊野堂は鎌倉時代の末に鈴木某が勧
請したものである。中村駅西南二軒、バス十。



（夕顔観音）松川の水基山にあつたが、戦時
中尾浜の船越観音にきに移された。古くから安
産の神として尊ばれ、婦人の参詣が多い。
（古墳）中村城址から表西山・愛宕山へかけ
て、又高松や木笑等の丘陵一帯に数多の横穴が
あるが、皆古代の墳墓で、勾玉・管玉・刀剣・
土器等考古学的価値の高い珍品が發掘された。
塚の部の田塚も著明で、斯道の研究者を満足さ
せてゐる。



（瀧庭鑑泉）磯部海岸に添つて南進すると古
来中風に特効のあるという瀧庭鑑泉に着く。間
近かに太平洋の潮騒をきき、オゾンを一呼吸
つて俗塵を洗い落すには恰好な湯治場。
中村駅南東十軒、バス三十。



（歡喜寺）小泉にある真言宗の寺院。境内に妙見
が安置されている。妙見は相馬氏が遠祖高望王以
來尊信して来た守護尊で、元亨三年（六百三十余
年前）相馬重胤が下総から当国へ居を移す時、奉
じて来た古い縁起を持つ。毎月二十二日が縁日で
賑わう。
（鶴の尾崎燈台）水基山の海中に突出した鶴の尾崎に
ある燈台。白壁の瀟灑な姿は、翠の松や紺碧の海とよい
対照をなし、一段の風致を添へてゐる。
ビーコン式で遠く十数海里を照し、沖合航行の船舶や漁
業家に多大の便益を与へてゐる。

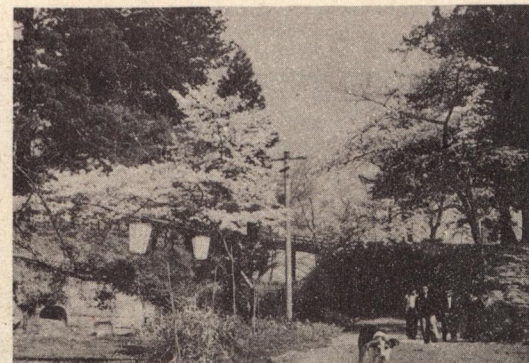
野馬追祭と年中行事

（野馬追祭）野馬追祭は七月十一・十二・
十三の三日に亘つて、南北六十軒の旧相
馬領の天地を挙げて盛大に挙行される。
初日中村・小高・太田の三社の神輿が、夫
々昔ながらの物の具に身をこめ、各家定
めの旗をさした騎馬武者を従えて、原町
の雲雀が原に出陣になる。「御練出し」
と称する。中村神社御練出しの行列はす
べて古式に則り、陣螺の音・押太鼓で隊
伍を整え「見あせて参れ」の叱咤の声も
勇しく、肅々と中村城を後にする。時に
午前九時。原町に着けば宵乗りを試み、
二日野馬を追う。（今、のろしを追う）数
百の騎馬武者が入り乱れて、戦国絵巻さ
ながらの光景を展開する。正に天下の偉
観である。三日は小高で野馬掛を行う。
野馬追祭は相馬氏の遠祖平将門が關八州
の兵を下総の小金原に集めて訓練したの
に始まり、既に一千余年を伝へてゐる。

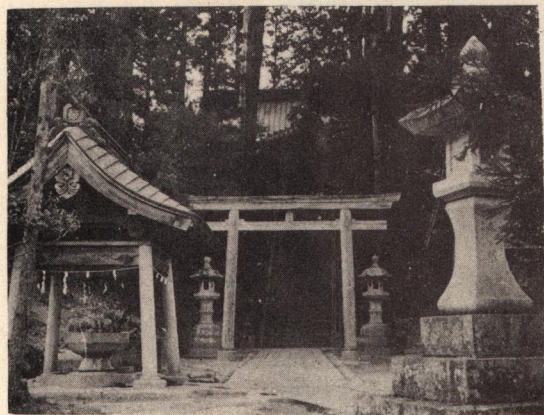
（七夕祭）旧七夕の前後数日、メーン・ストリー
ト田町を中心に軒を競う。
（花火）立秋間もない澄んだ夜空を、数百発の
仕掛花火・打ち花火が五彩に彩る。宇多川畔は
黒山の入出で賑わう。



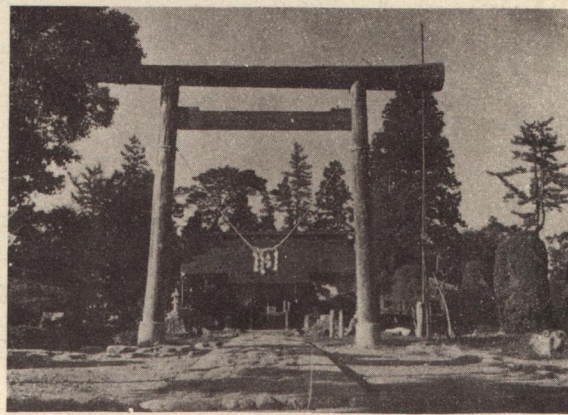
相馬市街



（中村城址）慶長十六年（三百四十余年前）
相馬利胤が中村城を築いて小高から移り、爾來
相馬六万石累代の居城となつた。天守閣は落雷
のため風く焼け失せしまつたが、大手門、石
垣、土塁、城濠等は昔のままに残り、古城として
の面影を止めてゐる。馬陵城とも呼ぶ。史蹟の
指定をうける。城内老木鬱蒼たる中に、中村、
相馬の両社が祭つてあり、東方に二の丸野球場、
南面に長友競技場が営まれている。西隅に聳え
立つのは忠霊塔。
城址の勝景は花によく青葉によく、紅葉によく
雪によい。特に城郭内外数百年の桜の水に映ず
る美しさは格別である。中村駅西方一軒半



（中村神社）相馬氏累代の氏神として妙見を
祭つたが、維新後本地垂迹の思想が清算され神
仏分離の実行を見て、今は天御中主神を祭る。
（妙見は歡喜寺に安置）しかし今尙、太田神社
小高神社と共に相馬三妙見を以て称せられる
は、永い間の伝承による。鎮守社として地方民
の崇敬が殊の外篤い。中村城西の丘上に鎮まり
社殿は寛永二十年相馬義胤が造営したもので様
式が珍らしく、重要文化財として貴重な建造物
である。例祭は花の盛りの四月十八・十九の両
日であるが七月には前記三社を絡んで野馬追祭
が盛大に挙行される。



（相馬神社）中村城址の中央本丸跡にあり、相
馬氏の祖相馬師常（頼朝に從つて戦功あり）を祭
つてゐる。例祭は十月一日。境内の藤は樹齡
數百年を数え花期にはえぬ美観を呈する。
朱塗の袋櫓の袂に相馬の国学者岩崎宗山の碑が立
つてゐる。

相馬市景勝鳥瞰圖

